


少年<sup>しょうねん</sup>たんていのレンは、学校<sup>がっこう</sup>でもいろいろなじけんをかいけしつてい  
るよ！

★お話<sup>おはなし</sup>が正しいじゅん番<sup>ばん</sup>になるように、□に番<sup>ばん</sup>のうらなを書<sup>か</sup>こう。


1

朝<sup>あさ</sup>、レンが友だちのきんた、リクと教室<sup>きょうしつ</sup>で話<sup>はな</sup>していると、  
かりんが走<sup>はし</sup>ってきて言<sup>い</sup>いました。  
「にわとりが一羽<sup>いちわ</sup>いないの。きのう帰<sup>かえ</sup>るときは、いたのに。」




3

つぎに、レンは、とびらをしらべました。かぎはしっかり  
かかっている、こじあけたあとありませんでした。  
ここからにげたり、さらわれたりしたわけではなさそうです。




6

そこへ、にわとりをだいた先生<sup>せんせい</sup>が、やってきました。  
レンがすいりしたとおりでした。  
「手当<sup>あ</sup>てしてもらったので、もう大じょうぶですよ。」  
先生<sup>せんせい</sup>に言<sup>い</sup>われて、みんなはあん心<sup>しん</sup>しました。




4

それから、みんなで手分け<sup>てわけ</sup>してまわりをしらべていると、  
リクが金<sup>かね</sup>あみに小さなあながあいているのを見つけました。  
「そのあなは小さいから、にわとりは通<sup>とお</sup>れないよ。」  
と、きんたが言<sup>い</sup>うと、リクが言<sup>い</sup>いかえました。  
「でも、ここに羽<sup>はね</sup>とちがちょっとついているぞ。」



2

そこで、みんなは、しゆく小やにおかいました。  
まず、レンは、しゆく小やのまわりの足あとをしらべます。  
さく夜雨<sup>やあめ</sup>がふったので、足<sup>あし</sup>あとは二人分<sup>ふたりぶん</sup>だけでした。  
小さいほうがかりんので、大きいほうは大人<sup>おとな</sup>のようです。



5

それを聞<sup>き</sup>いたレンが言<sup>い</sup>いました。  
「わかったぞ！ きつと、金<sup>かね</sup>あみだけがをしたにわとりを  
先生<sup>せんせい</sup>がどうぶつびょういんにつれていったんだ！」

